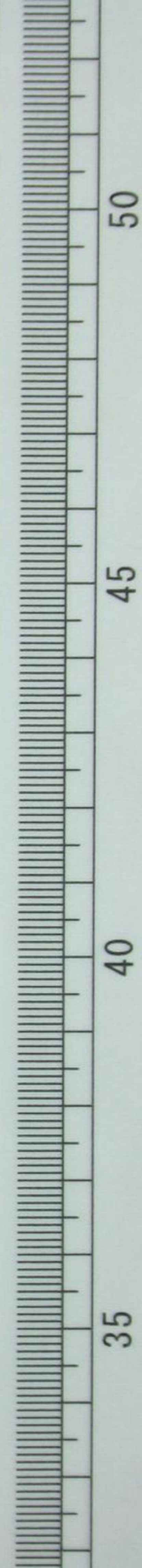


雙魚堂日誌  
大正十一年  
七月以降

特別  
14  
1919  
585





雙魚堂日誌

一日 大正十一年七月以降

雨風、坂口五郎、又江村一、耳坂、廣井一、  
 リ来電、相耳由藤と属、居て、日本教  
 育の缺陷を意見せしむる、十一時、  
 帯工共業、印に内務とあり、七、説、  
 大、教育上の意見と、概を述べ、  
 居て、長文の意見と、寄せ、  
 加納、沈、五、中、の、意見、  
 不備を、  
 脚、其、記、録、を、  
 午後、森、  
 陽、に、  
 利、





中村近午を又重の印洋の送あをりたる永  
樂寺より大隈家へ出入同八分七の四谷三河  
屋(道)知列る、改口五重年と貸付し淵鶴  
敷(魚)十六貫店へ来り、常道(の)柳分菊衛  
の計列る(五日より前深井兼坊)

二日 〇曜

風、朝より強風を帯び、五重年身物話  
話や、的(の)列る廣井の身物と給り  
あ積る(と)附(は)し酒梅、午(の)お(と)思(は)す  
江戸(の)お(と)思(は)すを流し、お(と)思(は)す廣井と

五重年

別(の)五重年(と)付(の)を物(を)閑談(と)時(を)物  
し、夕刻(の)別(の)帯(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)  
す。

三日

雨後、雷(の)今(の)夕(の)一(と)も(の)あ(の)出(の)旋(の)舞(を)帯(び)て、午  
後(の)伴(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)  
焼(の)杉(の)文(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)  
り(と)思(は)す

四日

雨、旋(の)舞(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)  
十時(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)  
出(の)版(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)目(を)と(五)重(の)



大隈侯傳記編纂委員とせしむる柳田馬  
坂とて侯と支那との關係を考へ四時有るこ  
所の語法を考へき且つ速記せしむる関大  
印とて醒し飽と云ふ代筆と郵送とて本  
文坂田増其の中とて中村武雄居るを  
九条家系と云ふ書田録を定めて是より  
終り兩誌ますり相も入り其意あり加田全  
三郎死去

丑の

丙九時深井高坊：行き朝倉名菊衛の告別

式三信即帰路琳瑯客：三三三の回を修め  
二十日拂入、如出中の回、森脇と坂田  
上弘茂と謝呈五十四回、持老と坂田増  
五郎とて已ぬ款まんり杜と十都、坂田  
包とて是を送り午後山内信也來、坂田  
増五郎とて杯本二通判書

子の

快情、副本場合上田穂とて來出、山内忠次よ  
り電話未だ、加田全三郎死去、有麻布  
、香典并に山出あり人を考へ、十時



大隈邸に到り文の協会の幹事を  
ききし書の決まらず前夜に  
交へて協会の十一時より  
出向浦をわたり午後  
リ夕刻迄二面迄廻り  
村山岩屋を重印し  
東出

七〇

所、風、以、に、五、峯、の、り、物、を、り、来、つ、て、別、を  
先、く、清、形、善、雅、目、の、十、時、の、印、別  
多、此、の、重、役、を、し、て、先、二、時、の、

東 森 文

古松寺に到り、がら、田、を、こ、り、の、先、お  
會、に、臨、し、ゆ、緒、神、田、の、出、場、を、初、め、二  
三、の、を、を、始、ひ、夕、刻、四、谷、の、牛、肉、店、三、河  
屋、に、大、隈、侯、邸、親、しく、出、入、し、四、十  
五、名、會、の、会、場、を、具、す、武、市、坂  
内、の、中、に、お、も、り、合、會、の、後、も、此、會  
を、時、に、開、き、志、侯、の、在、時、を、得、ん、と  
決、し、次、后、の、物、を、り、武、市、余、外  
三、人、を、合、け、し、

八〇



小雨、厚紙の半分記の北紙の報に投ず、施  
録を重し、各地書下に出書を齎し来る  
十一時又の協力を事務と利りるを急  
す、印刷会社より印刷部職工給料他  
上げと一出急業に臨り、内報あり、  
上命書取次より申出、午後出紙紙生に暢  
子今等も辨りて之より、又刻文江を急  
業解決を報し来る、由り後の取に五奉  
と申、丹美原平と候補者となす件、自  
云々の依頼電に到達、又の協力を中元  
謝金七十圓到着。

九日

日曜

西風、所収取の事、電に申す、  
馬原平と出状と、又取に五奉上  
望書取次、清原平と出状と、  
す、表書取次、控り、五奉一、控書、大隈侯  
一言一行、出下、待偏書成、龍報を等  
一時を初より、十時と大隈邸に到り  
書問神を為す、四時より、午後十時  
月を重し、もの関り、この甲乙丙三  
等、別り、是と申す、(一)より、保  
存と、保存と、要は、心の中を、選り



分ける方針を定め、ある三百巻の  
の筈也、ゆゑ後六次者三本、置酒し  
て後、朝食後三々三々又坂田増五  
郎の郵を判る

十日

小兩朝の事多々、難治を覚す、森脇前内  
傳江郎事ある、町田忠次一云をめらる  
来る十二百報知紙の記あると延き大隈  
家の千紙納心の紙と華とありある  
ニ付とやと聞際其あるとつ、右記未  
る石川の発物書書代くをさる、午後文

東本願寺

坂田増五郎に到り、坂田増五郎と次郎が出版  
の因をを撰擇す、坂田増五郎と前内  
増五郎の字を二枚贈る、夕刻永樂  
堂本部と松竹中打進午志賀重印  
の送別會に臨み、分岐別室と高田比  
田増四と二の枝改正校記の件と内談  
す

十一日

是、森脇前内上の花來、信文跋、  
之光輝一冊扇子一本と贈る、其時共



二竹内淳二と名を出、新刊を著し七時を物  
夫午後徳らと光を付い出浴、湯場の幸  
四錦の映畫を觀、海路天新、飯とら  
る、町田患流と名を出、湯場の山形一  
幅喜と名を出、改裝を托す

十二日

町、石城と名を出、一印出原、互以、ち妙  
就を中、死後の福進、石城と信満とす  
より、月、信々の折合と为す、本島、湯  
流、湯和、長嶺と名を出、終日、家、居

十三日

町、坂、五、名、出、石、城、三、の、中、町、中、報、知  
社、大、隈、名、出、河、内、名、余、の、注、記、を、  
報、の、中、中、村、唯一、名、漸、名、志、六、而、人、來、  
の、一、時、付、む、ま、ま、事、報、を、未、以、終、る、事、  
の、と、約、す、並、本、名、出、名、出、名、出、名、出、  
山、の、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、  
名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、  
名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、  
五、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、  
名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、  
名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、名、出、



家主侯補：又その電報利子も余も  
由玉事務を折衝せし由義ありて  
後々快申す

十四日

明坂の五時半の電車に乗る。物回行物も  
約す。報社の廣瀬：所々引つぎ  
出陣と就ての海法を指し。海をし。西  
不望三記念より業。城及び出張の  
其功。事務義。電報を。午後  
午後日。名。由。を。明坂。物。

山形物も。保。合。社。も。借。入。を  
西午田。の。物。も。利。子。二。万。納。付。を  
西。の。す。る。の。自。由。子。と。渡。す。九。時。四。分。上  
明。坂。の。候。不。快。候。に。乗。え。て。七。家。を。見。す  
最。先。自。動。車。に。同。乗。上。明。坂。に。列。の。旋  
省。の。際。其。草。靴。を。折。ぐ。た。り。日。印。と。失。し。物  
車。に。上。り。昂。然。と。見。え。る。た。り。為。ら。ず。何。物。を  
車。内。に。入。る。こ。と。を。得。ず。し。為。不。便。を。極。む。也  
行。偶。と。五。半。車。の。物。も。同。行。車。家。を。同。乗。す  
唯。此。以。て。今。も。遊。玩。只。人。秦。皇。功。外。一。人。因  
高。に。あ。る。た。り。五。半。車。と。遊。玩。の。法。を。交。り



旅のついでに寝るをこころ付す

十巻

四時三十分頃郡山駅をぬれ、寝るを志し  
あつて寝所は地味な客舎に起床後  
荷物をもたせりて洗面所へ入るが、若松駅  
に到りて七瀬より喫飯し、徳沼谷の  
清流の風を涼と感ずりて、終に飯取地  
に入り、津川迄の風景を眺むるに、五津岸  
程の夜の本寺の石垣前岬は、全圖初め  
名を知る、新津に於て坂口下車、この村

よ、石塚の南邊の村を過るに、出逢の里に  
至り、二三の徳寺を五津と托し石塚に致さ  
し、十時頃頃に着、野に石塚の川上  
法願出で、直に石塚方に投ず、右橋  
義彦の墓に立、夕上るに午後出逢  
余とゆつた、古くは、飯、出逢、電  
車、電、直に石塚の村にあり、石塚と電  
流と交り、山田、飯、或、流、二時頃頃  
高橋義彦の墓に立、人を迎へ、石塚  
の上、飯、直に内城、一時、流、飯、  
後、飯、直に、飯、井、電、流、を



通しめり功を乞ふ、可橋去る後援友  
志川高孫舟崎等四五来功送表、  
つき柳城を渡り、午後振え七鶴茶  
屋、飯山物又あり、杉井石塚村上と  
来此の安と列す、一時石塚台、四二  
外す

二十六日

朝や雨、早紀石塚三侯梅と并海岩の  
種善同志、其つて後援を乞ふの書を  
裁し石版印刷に廻す、朝飯後飯

五峯と訪る、時事務と文海、次才  
を報す、五峯也、之を巻く、  
出書、出文、原、今と示す、  
十数部、眼、三十二時、石塚、  
印と去る、長子、此、石塚の、  
至、主、便、見、為、也、二時、中、  
北、細、沙、後、社、に、到、る、  
中、房、井、一、七、十、其、  
希、因、傳、入、し、を、  
在、得、  
盤、橋、に、到、り、一、次、後、  
杯、を、着、け、七、時



三十分の汽車に接し、ゆきの途に就  
く、車中へ須美東馬松木山の東  
上のなるす

十七

今朝六時五十分をとう上り着ゆ、又須美  
と自動車を通りて、直にゆき、林田源  
方へ伊原正理の跡に到り、又近き市女  
郎の跡に到り、前田博とて来り、此田とて  
湯山本とゆふ、物定ゆふ、二十四日拂入  
本印跡跡名、二玉地、此地、此地、此

東林

湯を好み、あゆむ、三十分入  
午後ゆき、夜音とて、或は、或は、或は、  
此歩及に散策、此歩及に散策

十八

雨雷、木林脚、今、今、今、今、今、  
ゆき、ゆき、ゆき、ゆき、ゆき、ゆき、  
り別る、澄懐堂、ゆき、ゆき、ゆき、  
数十則と抄録す、今、今、今、今、  
池、池、池、池、池、池、池、池、  
あ



晴、植之新に後を急ぐし、侍有、其功、林  
田、源、万、り、死、云、る、身、考、典、五、田、吊、状、を、  
授、す、又、伊、藤、正、文、死、云、る、身、吊、状、を、  
す、五、ろ、田、出、版、部、に、ま、し、を、馳、し、  
、身、往、打、く、一、云、を、見、ら、り、信、友、友、友、の  
子、息、并、に、身、往、打、人、の、息、の、妻、死、云、  
、何、ん、も、吊、状、を、見、ら、り、午、後、乾、司、  
、鬼、原、と、い、ふ、角、其、中、の、先、お、式、に、  
、考、典、を、考、す、由、路、津、田、の、お、え、を、  
、乙、荒、干、の、田、を、耕、の、山、本、お、店、に、三、十

田、拂、入、田、原、茶、の、遺、子、大、子、の、醫、田、  
、考、典、を、報、す、坂、上、お、花、妻、あ、り、  
、

晴、海、を、武、次、中、毒、脚、耳、流、出、版、部、  
、リ、金、五、ろ、田、出、版、部、古、池、素、三、と、  
、珍、帖、并、に、荒、原、山、本、を、  
、を、考、す、由、お、久、寛、と、し、  
、吳、原、平、と、し、  
、



二十一日

晴、午乾、夕方、城内増田の山、  
と今し、夕暮、夕陽、霞、  
條内、秋、夕、時、を、移、し、十二、  
時、を、多、分、二、時、物、書、  
を、功、分、二、時、出、代、  
八、午後、光、を、付、  
贈、心、讀、大、亭、  
しく、凡、部、の、氣、味、あり

二十二日

晴、中、田、海、兵、衛、  
記、編、五、家、の、件、  
子、其、功、内

子、克、を、付、  
多、花、耳、海、  
三、十、五、日、拂、  
と、今、一、  
ゆ、途、  
用、掛、  
秀、夫、  
あ、  
未、出

二十三。 日記



古池書三其の管内道ニ出系坂上ハ  
花取の例の治村也云々、内田川政又  
其の外、伊東某の事も過つす、午後大  
隈邸、利傳紀海軍長官を以てし、君  
中河海軍長官に手紙を打合ひす、二時  
し、東海軍長官も亦、この文の響  
の茶話合をともく、其の事も亦、森をせ  
ノア、今年秋に經ることを二時、改稱漢す、此ハ  
日本の戦艦多しと七十数年、英京に航  
刻セ、ノア、今、船を日本の人王権として  
出陣し、人も、おろす、及び、本年の電

東本頁

候直つ、杜河部、う、暑中、見、島、状、列、を、  
日、集、温、八、十九、が、

二十四

昨在大連上田奉輔、し、近著陶推集を  
送る、来、の、雜、紙、を、等、し、時、を、務、す、今、日  
ハ、一、出、札、を、復、す、伊、東、伊、東、身、法、十、時、よ  
リ、登、校、紀、念、会、の、業、を、切、断、す、余、の、港、業  
を、心、の、事、あり、便利、を、急、に、実、行、す、  
る、と、さ、う、は、念、即、刷、會、社、に、主、意、の、あ、り、の、折  
合、を、為、す、池、田、龍、一、年、法、公、物、取、を



購ひ入る。真の柱次や、留博の書状  
を尋ね、多岐竹内漢二回玉

二十五の

明、大連の上田恭輔の書状を尋ね、下村  
正大ら、其功病後初めのもの上巻也。二三の  
拙著を贈る。今津八二其功、十時早大紀  
念の書あるが、不に到り、今教授と云う附  
証書の因あるを揃へし。一時物も、清の  
美作より来た。石部より、見る電送する  
の極く、同の深更、五、電あり、光と付

東洋文庫

ふと銀す、二十、上巻、四、枚、取  
戻、と、贈、り、神、宮、の、原、を、送、り、し、ま  
す。

二十六の

明、今、朝、前、回、憶、後、某、を、得、て、其、接、し  
て、其、書、の、細、部、集、二、冊、送、り、し、早  
稲、の、紀、念、の、業、証、書、を、送、り、し、其、の  
巻、名、は、漢、字、と、す、也、古、池、書、三、十、五、の  
新、編、と、す、也、本、林、陽、美、樹、上、回、秘、録、功、  
紐、書、の、提、示、夫、二、三、の、條、を、送、り、し、其、の  
山、清、淨、心、院、と、し、機、十、三、年、忌、八、月、十、五、日



有事あり、午後印刷会社に到るも、  
とらふ。又協理員會に臨時開會、第一  
場の演説をあたふ。午後とて雨降る。

廿七の

朝報専ら早大の証書発行に關する取  
扱収受事務の案を心に、長岡路の  
、擔保を附帶して、承認公三、通印  
に上書あり。登校地念、手書の子孫を  
減し、午に到る。津田七、四、一、二、出、店、を  
おこす。須貝彦松母の訃到る。午後、

東春五

石塚、高選の申報到る。初、  
あり

廿八

大田川政文来る。三百托し、五、  
江、教、淑の私印、講、四、冊、の、由、二、冊、生、  
石塚、三、中、に、出、就、を、お、か、す、中、田、油、吾、来、話、  
並、木、元、場、子、を、一、の、話、を、お、か、す、場、子、と、七、の、  
百、の、校、に、法、件、を、議、す、須、貝、彦、松、母、  
死、云、三、日、番、典、三、日、を、お、か、す、午、後、  
あり、先、を、付、ひ、演、説、に、到、り、市、五、段、の、映



畫を親切致し奉り候す

廿九日

晴、坂上弘義、奉り注射を施す、今津八二より  
奉り、古書等の別荘に在りて、日入の程、偏と健  
を圓くも、心算り、勸め、結果、あかき、志を  
従ひ、しと、奉り、日、ぬ、田、の、政、文、の、出、札、を  
し、津、唐、和、印、簿、の、事、を、三、三、と、奉り、古、池、集、三  
古、賀、教、を、奉り、玉、札、と、奉り、し、奉り、之、元  
次、中、し、出、札、を、奉り、奉り、小、文、江、集、二、奉り、致  
午後、珠、環、閣、を、訪り、二、三、の、書、を、購ひ、て

之、の、書、を、奉り、し、奉り、也

三十日 大祭

晴、朝、早、雨、今、津、八、二、と、功、の、書、を、奉り、  
新、引、福、を、奉り、お、後、を、奉り、奉り、奉り、地、を、就  
て、換、あ、る、も、便、と、し、お、後、く、七、奉り、奉り、  
又、奉り、奉り、奉り、十一、の、物、を、奉り、奉り、奉り、  
井、一、日、以、由、文、二、中、奉り、奉り、奉り、奉り、奉り、  
龍、齋、使、長、碑、一、帖、を、贈、奉り、奉り、井、瑛、奉り、  
法、信、奉り、奉り、奉り、奉り、奉り、奉り、奉り、奉り、  
の、書、を、購ひ、て、之、を、帰、路、傍、停、電、路、に、懸



有一過、難波理一申、此状を賜る。

三十一日

時、難波理一申、廣井一尋、此、分津、い、ま、  
事、出、直、と、考、え、を、賜、ら、す、今、ま、う、別、給、引、物、  
リ、し、件、に、関、す、午、後、神、田、の、玉、店、を、幼、の、  
七、二、三、の、ち、と、猶、ふ、又、刻、ま、し、一、百、兩、あ、  
リ、関、方、を、い、ら、し、為、給、入、を、状、列、奉、文、  
由、給、奉、回、公、差、上、勘、定、也、

東本願寺

の八月

一日

時、古、池、兼、三、と、い、ふ、者、尾、秋、形、甚、事、外、マ、リ、  
一、枚、猶、小、儀、二、十、日、也、十、時、登、校、比、奈、  
多、共、あ、り、給、不、と、給、を、七、高、指、と、托、し、給、  
証、案、の、因、あ、ま、七、拾、し、十、一、時、半、方、浪、  
却、り、列、し、午、後、四、時、迄、出、向、浦、を、と、  
り、後、家、を、見、あ、り、を、い、ら、し、上、田、向、  
心、事、也、

二日







す、新得石塚より西へ三軒貯り来り、芝  
克元御印をもと事出、且つ四人に托し、今大概  
家石山陽出向の旨し別連

五日

頃、大掃除を行ふ、坪内書道集功お  
振くこと念書、十二時登校、高  
田に記念する事業の事、湯をえんが及二時油  
宅、坂田博士印をもと事出、中村近牛洋の  
二日、東坊おと告ぐ、元克元御印と云状  
を寄す、石塚へ書札を寄るなり、

六日

頃、座あゝの事、論をおす、久須美雨を乞  
人身の物を貯る、又物に及し、事おし  
寄本教す、題著とらる、種知紙久  
廣、漱書志上、今の前口大隈家の書簡に  
就て、紙しり、筆記を振く、まじり、校閲を  
せとあり、今関天勢をも、支那現今の事界  
を照らす、干後、苦直を思ひて、久須美の  
為、数冊の題書と為し、又題、匣括云し、  
和名、在平、北海、道をも、別す、供、未、往、田、の、玉  
衣、と、坊、の、と、同、也、用、事、を、結、ぶ、と、い、ふ、旋







らるる時物を結く物志の珠と云ふし。

九日

明、坂上寺より法財を施す例の如し、上田徳伊  
孫伊吉來訪、抄録を力む、廻り地と云ふ  
次者三の公利、印刷舎此の本宮、坂の上峰  
來訪、徳來珠琺瑯答に利り二三の圖を  
贈ふ。

十日

明、早朝理能友、馬野山清淨心院へ奉  
五田布施を郵送す、曰院に置く牌に  
長男棧十三田忌あり者三男若雄廿七  
田忌あり者一田向を托す、相馬由也早大  
校友徳高瀬孝仁釋然元を伴ひ來り  
印刷舎此利主しつを云ふ、午後敬兼神  
田を經て沼澤に利り物を贈ふと云ふ

十一日

明、種村あふ八女ゆ、八女河の二二の牧を  
寸、庭中山上のお路、坂院に竹井戸を  
働の修理を如る、坂の上峰寺に



梅津精一翁を為次外敷家より暑中見  
高しむ打利ふ。正午五峯と目動車  
を既の紅毛子館に利う。商政をせう  
又利物も、折るう。折出政と敷乗す

十二。

昨、伊左衛門さまの梅津翁の選言を  
り今朝も、翻池十四年政書と即  
讀ふ。此のむき大隈侯傳記の抜料と  
し、要用のもの也。今朝ハ二時、其  
直路平らり。又、以城一舟、暑中一

も甚ら七午後、龍舟を舟子より三時天候  
曇し、雨降き。天地劇里驟雨、利ふ。えと  
て終、利ふ。昔、修理を延る井舟を鑑  
を以て池の中央、道守く、忍ちよ。三寸の懸  
あり。池あり。二、如くも動ちう。折るう。折  
あり。和泉さまき出、京校后

十三。

昨、五峯、今朝ハ一舟、舟、舟、梅津を  
振き、報紙、報紙、報紙、方、報紙、報紙、報紙、  
葉、報紙、報紙、報紙、報紙、報紙、報紙、



午後伊東茂在東京の福澤邸を後に  
在唐崎早達整衣をきて来也。田原未三人大坂  
、後村の報到す。

十四日

成印三顆今存之と証を基へて家利  
を托す、朝来六朝碑本日紙を騰と  
し、西午に到る、電話料十、白紙納付  
了、海急に号を改め、素脚  
来功、至る日、場を、あるに中る  
印し、幼も借入、高石塚を、西山を  
焼く事、午後休あるを、録し、改を  
二刻の電氣、故に映画も親、神田の賢  
亭に、録し、くる、初、又、雨あり

十九日

今朝晴而一、出を、おん時を、殺す、古池集  
三、神戸第一の、新井山陽、出、畫を、乾し、二冊  
子と、うし、なる、井、山、岡、織、母、の、寸、大、毛、絨  
十二枚も、持、卷、せ、し、購、入、滿、持、へ、出、張、中、の  
協、定、の、地、江、原、兵、衛、へ、り、身、の、物、を、贈、ら、る、  
午後又、筆、研、に、親、し、み、三、時、に、至、り、已、也、



時、右日夕、ついでに、若根強冠  
と遊りんと、思ふまゝに、軽装束を付、九時  
四十五分、本車、野の邊、車に、投ず、車窓に  
留り、カワヲ為、次、(一)日は、大村、行、治、り、  
カワヲの、終、る、也、(二)人、ま、ま、大、改、く、ゆ、つ、こ、と、  
関、ハ、果、根、一、泊、の、上、帰、改、と、ま、果、根  
の、何、れ、も、あ、す、や、と、受、け、は、吉、の、下、の、春  
ら、危、一、泊、を、ゆ、し、と、ま、余、も、果、根  
に、行、く、る、ん、と、強、冠、と、直、行、を、ゆ、束、し、  
強、冠、と、し、先、を、カ、ワ、切、に、日、行、一、泊、と、す

す、あ、即、ち、強、冠、車、中、強、冠、元、例、の、如  
く、時、の、移、り、を、知、ら、ず、カ、田、原、と、下、車、と、  
真、に、自、動、車、と、認、じ、た、あ、る、危、に、投、ず、  
時、一、時、を、こ、し、午、お、ち、を、喫、つ、て、後、地  
の、月、一、つ、と、一、泊、若、の、に、危、此、家、に、家、し  
ま、ま、大、改、候、と、思、ふ、并、に、危、め、を、カ、河、并  
に、走、り、も、連、れ、し、訪、問、夫、人、の、病、状、を、聞、か  
る、あ、の、の、熱、あ、る、も、カ、河、并、と、ま、ま、是、れ、の、  
の、子、に、あ、の、病、由、結、士、も、思、ふ、を、危、け、し、  
し、強、冠、と、あ、る、も、危、に、こ、う、う、を、危、に、  
次、六、徳、川、頼、倫、候、と、思、ふ、別、館、候、



とゆききし七保に候不在とゆききし刺をる(い)で  
午後三時川の山上においんと云ふに和自  
動車と同乗、葦原の湖に到り湖上の景  
を賞し、お根権現に参詣をす。お  
根権現のことなり。権現境内へ入  
らんと始めしや、お側の古杉天を蔽ひし  
陰々の河に涼味漲り、お根の古宅  
こゝより残を留むと思ふに、礎を  
登りて拜し、帰途湖畔に古釜二個  
の陳列しあるを、一を原にお  
けい文永の年報刻しあり古宅に携す

べし、斯く古宅を今ありく、丁重に保存  
せんゆききしものとおりに、諸の舊蹟下の地  
を訪ひ、直ぐは帰途に就き、更らる強羅  
を訪見とあり、強羅に到るを(自動  
車)宮の下より戻りて行くを順路  
とする也、乃ち回数を下り、お根の古宅  
折し強羅に到り、お根一晩を延び  
和洋の二公園を見る、是等といふは  
車に、いまも通せし、お根の湯本ら  
通じ、且つ強羅山上より七る尺のケ  
ブル、カーの設備あり、即ち試乗す、



又此境地の一樹あり、ケールンの極  
端なる高地に洋風の寒氣入りたる  
葉を喫し四方の景色を眺し、六ヶ  
ルに乗つて下り、谷に下りて自動車  
に乗りて直ぐ、谷に下りて、時既六  
時三十分、一浴後、晩御中、大浴候  
に物を貯りて、俟て六時余の室に  
以來、福笑時と稱して別る、と  
睡を得ず、尚七時、夜方を感  
し翌

十七。

早朝共此地をめぐりし、長尾峠を  
御座り、出ひ、東西に別る、終  
り、少川一日清在とあり、又  
谷の勢を能く見えず、相根の氣  
温、正午八十三度、早朝八十二  
度、夕方九十度、朝飯後、光を  
て、谷を出ひ、物を貯り、散策  
を終り、堂の下の宮の下、崖  
下を数丁下り、溪谷を掘き、極  
端なる大滝あり、三十数年  
前、山  
根堂と初め、函山殿と改稱、一日徒歩







便より、風光七快閑とて一日の便あり  
るも、ここを遊破するも、今四つ  
始め、人も多く、長尾峠の邊道より、富  
山嶽を望むの跡とて、今此道を取り  
る目的の一七六、こゝを、あつしが、廿金  
して、雲、何、あき、の、ら、あ、ひ、濃、霧、か、全、山  
を、掩、つ、て、墜、道、こ、こ、を、せ、し、は、ま、ま、ん、ど  
崖下の樹木を、す、す、と、并、す、る、跡、あ、ら、ず、  
即、嶽、の、目、的、を、終、つ、て、ま、し、得、り、し、も、涼  
味、と、飽、ま、す、こ、こ、を、あ、み、く、肌、膚、に、徹、し  
快、言、ふ、可、ら、ず、一、時、間、す、ま、し、と、御、殿、坊

に達し、お慰の後、高、大、村、を、九、時、三、十、分  
の、汽、車、に、投、つ、て、大、坂、の、帰、途、に、就、き、  
余、等、と、十、一、時、五、分、の、汽、車、を、得、受  
け、帰、東、の、途、に、就、く、二、時、三、十、分、直、に、  
帰、宅、此、行、輕、装、束、一、泊、す、る、所、と、せ、  
り、し、ま、終、つ、て、二、泊、し、と、各、所、を、お、説、し、  
得、た、ま、る、山、川、の、好、ま、こ、出、で、旅、者、一、切  
の、経、費、を、皆、お、川、の、井、す、る、未、月、に、其、額  
考、し、ん、か、ら、う、ま、が、帰、宅、後、不、在、中、に、お、塚、  
筋、の、ま、ま、と、や、ま、且、つ、お、塚、も、お、幸、  
の、画、物、一、幀、を、お、塚、も、又、高、松、梅、溪、に、囀



し給ふ余ら後後草池の宿成る又増子  
喜一申父の跡に接す又後を(喜)  
外二三の出物列る

十九日

晴、由緒なき意もはあまらるる田領收古  
池、三信天山中、就の自筆の行を  
持参、購入の價る三十圓也、吉尾秋の  
備代、平田耕了、増子、美了りく梅枝  
秀典、老す、坂上弘壽、廣井一、林澄  
三、身流、高須、其の次、中、二出物、此り

す、下女の付、廿、紙、以、安、田、本、田、本、次  
二出物を、是、ま、在、箱、根、大、隈、侯、  
謝状を、是、し、且、果、物、を、通、送、す、新  
潟、石、塚、三、中、大、改、少、川、方、次、り、出、状、を  
渡、す、文、三、也、の、二、六、増、玉、と、列、又、身、取  
旅、給、を、羊、子、し、午、時、に、他、の、枝、用、聞  
し、一、出、を、高、野、田、平、苗、と、名、す、今、津、に  
一、二、三、也、

二十日

晴

晴、報、社、の、め、あ、る、今、う、後、後、と、名、の、



草紙の事よ、今朝も校行し十一時の  
まか申すより、一玉を添く、所田忠法に  
授け、中田海吾も奉法、名金の事、百を  
皆申す、皆皆休なく、種う、さし、報  
し、来ふ、今、此、い、こ、い、此、と、い、ふ、あ、又  
大坂の、さ、前、者、こ、あ、就、と、い、ふ、又、刻  
今、申、い、こ、い、こ、申、前

二十一日

晴、上田恭輔、お馬、ゆ、也、こ、い、ま、い、ま、お、家  
こ、い、七、七、りの、挨拶、こ、交、和、と、い、ふ、今、朝、快

飯後、後、金、の、事、に、い、い、二、三、の、人、を、殺、し、七  
拾、五、の、取、片、付、せ、こ、着、行、十二、時、に、こ  
略、く、海、も、本、日、夕、刻、に、三、甚、也、家具  
本、宅、へ、運、搬、の、事、一、甚、也、運、送、の  
事、在、の、押、入、錠、の、こ、り、あ、る、不、茶  
其、骨、董、に、納、め、こ、い、の、事、其、供、  
今、津、に、係、及、せ、し、ま、り、約、也、額、面  
三、枚、方、策、二、机、一、個、振、互、今、津、に、あ  
つ、け、る、三、時、帰、定

二十二日



時、海客の在りし引方り以て船無國虫  
類の整心紀古に困難を感し不用の  
途に委印を決し、先づ船幅七船面  
二枚五十圓ニ委金却り、一、お松大恩より  
事出、松本出先より前田信の書状判り、法  
道里の整心紀に終る没頭、今譯の二書  
状を見る、所田忠沈と電伝と交換  
す、出版部より新刊二冊宛本を受  
く、真崎典三と西介と贈る

二十三

西午大恩より一書、お松大恩より一書、  
難船紀古を印、大改つ大村林三印を  
出、今(一)一書、お松大恩より一書、  
概あり、お松大恩より一書、  
こ、時客の船改甚成る、お松大恩の  
支那佛古史蹟踏査報告先を讀み、  
お松大恩より一書、

二十四

お松大恩より一書、池水漸やく漲る、龍銀を  
筆して時を移す、午後、お松大恩より一書、



國民の日本史を讀む。

二十五日

晴明、今日は一二時、飯屋の花、引越り  
リ、台報あり、松文を出店、不用洋  
装本、英印、此價、八十二圓五、其也、高  
為孝平、其功、古比、事、三、七、高、を、高、に  
一、事、二、所、事、の、事、凡、由、事、海、道、の、事、  
也、七、七、一、一、事、事、七、本、所、港、川、の、事、出、所、  
満、倉、船、務、の、事、海、美、を、掃、の、事、教、養、  
、事、の、事、刻、も、天、使、者、し、也、凡、お、こ、る

田代の日本史を讀む、  
手来、終、夜、健、健、あ、島、道、也、と、事、也、

二十一日

雨、風、甚、しく、戸、を、閉、ま、り、終、り、す、十、時、と  
つ、く、立、岸、山、本、事、功、二、三、の、圖、也  
と、事、也、  
田、川、政、文、と、托、し、る、江、敏、徹、和、印、講、又、三  
冊、出、来、こ、ん、る、五、冊、と、事、也、(十、本、)午、後、三  
時、の、出、店、一、二、と、功、也、  
早、大、の、特、許、部、令、と、事、也、  
早、大、の、特、許、部、令、と、事、也、



其<sup>他</sup>を要の件と内儀と

二十七の

頃、小柳善中より、五時、十時、多敷葉本  
の日、琳瑯洞と幼のて回とを、婚心神の  
二通り、松文中山本と、園と代抄  
酒、干時、風月をこ飲して、之より、五時、  
本功、新婦と若中、二籍もも、後み、徳の  
の刺に列りて、正、琳瑯洞江を、飲ら  
事云

二十八の

頃、松文中山本の底より、事云、山内、馬心、後  
惣本三國の、休息、句、念を、冊、抄、帯、旋  
録を、事、す、森、陽、笑、相、身、功、大、次、江、渡  
寺、あり、あり、田、内、未、こ、入、こ、出、状、を、及、り、午、後  
原、南、海、の、出、論、を、物、し、是、を、忘、り、出、版  
却、し、直、刊、と、一、配、本、

二十九の

頃、松文中山本の、事云、松文、松上、弘、新、事、の  
例、の、務、所、江、財、を、事、す、市、村、英、緒、林、の



其潮退始出版自其後村井始のり  
至以多由借入六十日(日)校友(日)其  
惟耳持十一時先回付外生(日)其  
物を(日)七村井始の地(日)其(日)故七  
う(日)石塚(日)印(日)物を(日)郵(日)送(日)す(日)人(日)を(日)傳  
之(日)庭(日)園(日)を(日)移(日)理(日)す(日)波(日)多(日)野(日)故(日)重  
漸(日)く(日)早(日)稻(日)田(日)大(日)子(日)を(日)し(日)八(日)月(日)三(日)日(日)校(日)友(日)改(日)正  
ニ(日)就(日)キ(日)維(日)持(日)員(日)居(日)用(日)合(日)の(日)道(日)牒(日)到(日)る

三十日

あ、お、河、の、政、文、朝、舞、人、本、壽、昌、來、持、長

池、津、三、三、元、天、富、自、車、の、代、ま、の、内、五  
十、内、海、ま、屋、井、一、車、の、長、の、後、ま、森  
陽、七、又、車、三、小、川、為、次、中、ま、の、其、也、早、大  
う、其、月、三、日、維、持、員、居、用、合、の、道、牒、到、る  
と、今、月、三、日、其、也、の、道、牒、を、後、ま、

三十一日

時、天、長、節、軍、艦、新、高、沈、没、の、報、到、る、  
其、前、九、時、前、夜、の、在、に、今、月、三、日、と、其、也、不  
在、三、日、其、也、の、道、牒、を、先、を、持、し、七、海、子  
に、散、策、大、量、に、飲、し、帝、田、飲、の、映、也、











音

晴、風中、崎は、次中、山、状を、及、す、  
以、却、遠、夫、高、如、高、暮、音、板、者、任、せ、と、  
神、田、の、山、底、を、切、り、二、三、の、園、を、購、ひ、  
後、ろ、ろ、ろ、東、坡、の、集、と、後、山、殊、  
日、の、長、き、を、受、ふ

六〇

晴、坂、上、山、形、有、う、例、の、海、射、を、施、し、と、云  
る、古、池、津、三、王、克、三、徳、而、卒、の、寸、珍、帖  
を、愛、く、し、ま、る、る、用、の、画、帖、を、下、物、と

出、し、と、遊、め、外、に、か、り、年、の、花、を、一、幅、  
ら、る、山、田、山、形、有、ま、る、又、東、坡、の、功、を、後  
み、且、つ、あ、す、め、の、例、に、東、坡、も、望、ま、ぬ、不  
の、日、に、合、す、今、昔、の、ち、豆、成、也、和、久、年、平、  
也、

七〇

晴、朝、日、早、坡、の、を、あ、す、程、打、ま、り、出、版、  
の、う、ろ、と、協、議、す、十、時、を、印刷、台、地、  
り、重、役、命、に、任、り、余、を、と、名、を、兼、  
上、改、善、に、関、す、る、研、究、を、行、な、す、



多を提煉し、の法、増田義一、大波侯、  
貴正、若、東、西、文、の、調、如、冷、出、敗、し、件、を  
協、議、す、和、名、自、平、本、事、北、海、道、の、物  
つる、に、付、可、つ、て、別、を、先、に、付、去、り、半、後  
又、東、海、集、を、送、り、且、物、を、賦、後、より、下  
婢、別、の、中、山、居、方、より、八、名、字、を、縮、刷、是、本  
刊、の、

八〇

此、朝、来、在、彼、の、物、を、扱、し、寸、珍、一、冊、略、に、成  
り、中、島、半、次、ら、り、し、事、を、下、婢、親、元、賦、故

田、中、紫、石、く、絵、料、前、至、る、二、十、日、電、伝、の、旨、に  
寄、送、り、十、一、時、先、日、付、出、題、銀、堂、に、致、し  
七、淡、菊、の、田、中、常、岡、館、の、映、畫、を、見  
候、より、ゆ、も、外、出、中、堀、由、一、邊、中  
國、路、り、し、し、事、也、鐘、田、格、也、(意、事、也、)

九〇

此、書、の、巻、を、り、し、事、の、物、を、給、り、大、池、素  
三、條、雨、亭、の、懐、本、少、也、を、持、ち、来、り、削、り  
乘、し、范、成、大、の、菊、譜、を、寸、珍、冊、子、に、腰、留  
を、如、し、素、脚、を、給、り、百、年、記、より、以、敬、集



神田本町の本店を効めたる。

十日 日曜

昨、股野耕石来訪印也を出して也。此、既書及後  
ニ漢相印之取ニ取貨付、菊瑞勝言日課  
了、午後神田、教果村の古店ニ回也を  
購也之ニ公舎津、一とと申也、新印也  
と扱又也。

十一日

晴、日印由若橋上橋所：借宅し、葦田の道

場を辨えんとするも、今相種之協湖の  
未借宅の事決す、此、店賃、日六十五  
日、金六万五千也、十時出股印の  
後會：伝也、出股印、とて、午月  
借入由也、十月十日、未色を、五万四  
年、未五萬、の約也、与、出股印、とて  
新株券と領收す、五万四、券二十  
八枚、五枚、田券五枚也、去、五、新の約手  
十五万四、二、の約、紅、色、未、月、十  
音、幼、限、之、二、更、と、割、引、を、能、也  
畢、日、課、勝、言、了、今、津、二、三、出、也、











時、解(本)の書名、山田海心、杉室を中田  
本、印(刷)分(形)の本、漸(業)毛(摺)の件  
、本(来)の(期)、業(一)七(回)氏(の)日(本)史(を)誤  
あ(ま)七(五)日(銀)行(預)計(入)五(時)と(し)上(座)  
物(軒)、早(大)各(印)之(任)関(係)今(社)之(任)を  
七(十)物(名)を(扱)き(出)版(部)代(理)部(設)  
置(通)信(販)賣(開)此(の)技(術)を(為)余  
七(房)上(一)場(の)流(説)を(為)す

十七の 日曜

相(耳)是(書)天(冷)氣(寒)邊(々)知(ら)る、開(民)史

を(誤)又(時)を(移)す、日(印)の(以)る(杉)屋(と)四  
印(を)誤(河)の(女)と(為)る(右)房(の)以(る)  
秩(方)古(坊)を(誤)く(る)然(り)さ(る)予(坊)を(具)し  
其(の)豫(解)を(得)梓(念)杉(本)の(家)を(功)  
あ(ま)こ(え)ら(初)回(也)悔(念)凡(日)本(と)誤  
し(神)田(の)出(地)と(三)三(の)回(を)婚(合)せ(る)  
あ(ま)新(生)古(悔)し(ま)ぬ(く)強(引)産(松)  
ら(物)を(さ)り(来)る(人)と(上)棋(所)と(考)し(て)  
口(借)り(入)ん(を)強(引)し(て)家(を)破(誤)と(考)  
ま(え)克(元)次(中)以(回)文(二)印(本)功(技)規  
問(題)を(由)知(ら)る(と)考(す)



十八日

明書尾秋水其某林の假表世成公の  
津八一に云就と書りて、城内道邊千石の  
付寄板に祝詞題と協議あり偶に高島  
古馬坊科中屋を興りて協議中の  
百に及ぶ。素脚並木十物に及ぶし  
等才其後先克元治りて古馬坊依原切  
一と自若一又改二冊部是、武市時女  
とて其也、今月又の協會海濱集に  
載せり大隈侯家公商納と題する  
余の於ては、就し二誤謬を訂正し

来り、國民史と撰ぶ、墨池編脱了を  
補字す

十九日

頃朝野及昆田文二印を功の校規詞  
題方張家新果と内納し更なる、  
三印を功の校規詞と協議あり  
中八一に、  
高島早苗に功の校規詞と協議あり  
と題す、素脚並木十物に及ぶし  
墨池編脱了を補字す、武市時女



今津二一、出状をばなす、昆田のり、  
 廿百刻、以、  
 二時、  
 降雨、

二十日

雨、  
 其、  
 三、  
 大正十一年、  
 課課、  
 二百五十八、

四十九田四十七畝	府税市税
七田五十一畝	所得税
三田三十九畝	府税市税
一田十六畝	所得税
二十二畝	府税市税
二田三十五畝	所得税
四十一畝	府税市税

和名文三、  
 新校、  
 大隈家、



総てをさしおき、その技を楷法すさう  
と云ふ、字字を現法視の如く、田中(穂積)を  
この長と云ふ、元と云ひ、志と破壊の  
こゝろを切しなると云ふ、お前のテ、シニ  
テ、一年を位をせよと云ふ、あゝん心、此  
暗黒と戦ふこと最早、不可能なるこ  
と瞭然とす

二十一日 日鑑

雨、廣井(二山)此をいふ、大連の上田恭輔  
より、其友、那、醫、藥、奇、法、を、贈、り、來、る、

服部耕五、米、切、印、鑑、二、行、を、贈、り、私、印、二  
點、の、刻、を、托、す、廣、井、一、素、陽、本、切、冬、去  
日、後、施、報、を、奉、り、七、時、を、後、す、約、一、年  
程、の、内、印、刷、令、代、に、但、又、つ、ち、あ、つ、此、早、大、回  
上、領、の、洋、書、目、録、漸、や、成、り、終、り、一、本  
を、贈、り、來、る、午、後、風、起、り、漸、や、強、冷、  
氣、甚、し、終、り、家、居、書、を、讀、む、

二十二日

町、校、規、問、題、其、後、の、行、之、事、日、以、前、と、し、書、  
讀、む、之、報、復、を、受、く、川、村、良、久、森、野、美、



樹身法、神樂江巻石、其功、ある歌の石を  
其の、午後内、ある、其を、日、在、今、社、と、詔、の、日  
石、今、社、隣、地、二、七、層、の、新、築、成、り、八、月  
一、日、移、轉、余、の、行、脚、と、詔、の、を、今、社、の  
也、新、築、を、首、樂、殿、と、い、ふ、今、社、を  
七、六、あ、階、を、よ、め、他、今、社、地、神、八、社、を、神、八、社、を  
傷、を、与、ふ、神、八、社、を、神、八、社、を、神、八、社、を  
難、あ、て、い、ふ、

二十三〇

雨、今、朝、神、田、の、南、の、御、坐、部、と、同、出、印

雲、今、夕、を、う、荒、干、の、圓、者、を、難、を、と、い、ふ、  
午、有、樂、步、所、の、日、本、此、年、部、と、坂、本、三、  
甲、連、勢、心、午、日、以、日、又、二、甲、増、田、勢、一、と、  
一、七、枚、規、政、心、二、つ、き、大、隈、家、の、對、東、  
を、内、御、し、三、時、家、二、と、い、ふ、冷、氣、甚、し、

二十四〇

唯

増、子、表、中、橋、用、も、未、功、終、と、枚、規、  
此、二、間、し、、此、二、間、し、、此、二、間、し、、此、二、間、し、  
と、能、任、者、了、候、と、今、夕、迄、の、仕、末、を、報、す、  
丹、兵、宗、光、と、い、ふ、其、出、身、橋、中、死、云、二、



吊状を呈する、午後傳ふて光を伴ひ記  
す、刊し、皇春殿の映画を観覧す  
リ、ゆゑ、日比田文二、中村、大隈に  
多し、校規をつき、文海の如余を報  
す、大隈同書と傳ふ、刊あり、出版  
し、煙山の最近西洋史配本

二十五。

町園、雪の出張のち、今朝物屋、身  
訪、校規、其後の推移を報告  
ゆ、路神田の出版、二三の団体  
う、本報、日比田と電話  
と交換す、前田博、身功、午後、開をゆ  
施、給を奉り、大隈、未、入、身、隠、完、引、移  
し、二、有、同人、六名と共、視物を贈り、九九  
圖書館、協、評、演、身、有、照、刊、差、友、有  
リ、断り、合、津、八、一、身、身、廿八日、身、身、重  
役、身、身、身、刊、十、時、交、向、社

二十六。

市、廣、井、一、身、功、甲、物、葡萄と贈り、前田  
博、身、功、西、身、功、三、種、と贈り、身、功、身、功、身、功  
し、七、時、と贈り、身、功、身、功、身、功、身、功、身、功  
身、功、身、功、身、功、身、功、身、功、身、功、身、功



校規... 内儀し 出版部... 三寄  
御書、作爲印... 紙来由あり  
山井望三... 香魚を贈る

二十七〇

雨、阪上必危あり... 森望三  
三月... 山井望三... 紙来由あり  
未、汝園... 紙来由あり  
く、昆田... 紙来由あり  
寸の... 紙来由あり  
致散... 紙来由あり

山本... 四十日... 紙来由あり  
美折... 紙来由あり

二十八〇

雨ぬき... 朝露漏る  
花を... 紙来由あり  
重後... 紙来由あり  
二種... 紙来由あり  
の... 紙来由あり  
を... 紙来由あり



す、その後のこと、関し、此の田々、雷は利、  
曉、百、高、回、協、士、其、功、も、的、可、流、す、相、も、又、  
田、中、種、植、其、功、も、其、後、今、終、と、内、初、す  
多、決、せ、す、日、皆、と、思、へ、て、滞、概、し、漸、く、決  
す、場、子、其、一、ら、し、と、其、之、禁、四、部、の、計、利

二十九日

雨、園、中、の、木、岸、漸、く、草、生、さ、き、香、氣、を、室、と、入、  
敷、目、人、と、備、を、騰、方、で、し、め、し、大、世、侯、  
不、危、と、同、中、材、料、と、も、さ、き、者、此、を、以  
つ、て、方、了、入、三、る、廿、日、也、才、一、期、所、得、税

附加稅納付あり、中田初五、才、来、功、九、時  
坂本三、中、を、訪、の、を、午、後、維、持、者、存、の、打  
合、を、ち、り、去、つ、て、口、印、創、會、記、に、到、り  
才、又、江、流、と、と、前、回、を、復、命、に、決、定、の、工  
務、研、究、會、に、の、き、滞、概、し、午、後、二、時、早  
大、の、維、持、者、存、に、信、也、投、視、問、題、を  
内、に、集、め、し、た、る、如、く、流、浮、子、の、是、る、潮、は、  
才、名、の、委、員、に、前、托、す、る、と、さ、り、教、育  
才、皆、由、也、是、才、来、功、を、近、場、の、園、を  
を、出、し、て、示、す、



風初起中深抄録。大隈神と物巻  
白鷹二瓶榊大。ふの子を誦給ふ。相  
良大八郎の訃刊る。飯村後二も。先人十七回  
忌の菓子も郵送し来。能録を寄し  
午後三時とある。出游現地。今秋紅葉  
録。高田前崎と合飲

○十月

一日

町紐育者中村近午の病をきり。十時

山崎坊：利り杉良大八郎の葬儀：徳島  
利ん心なきもるし。谷中高師：行く心  
うしと誤りなき也。由路神の：廻り一  
二の回をを勝ん。は月本に飯しとる。  
相良家、行連の志物を寄す。京都  
の石本院あり。また。山江中江森  
村の徳の言をい。贈り来る。新島  
飯村、志物を寄す。井土経章。舟功也。  
志書を後す。枝親、件。坂本三郎  
増子。長一。舟功。志物を寄す。陸河。境  
沢す。相良あり



二日

町井土佐重とて本也且つ其の譯に係る度  
藝舟双楫を贈る、服部耕石も其の事



焼く等二顆の印成  
く、廣井一才法干  
後走を贈りて出題

淡島の手回致し、決意を兄、此の通り  
去る通り、空身身と納りて、早大とて大  
隈侯紀念碑を建築委員を嘱託するの  
通牒刊し、宮田修とて来出、物未白

三日

雨を乾脱卸耕石とゆゑを、刻料二十圓  
老、十時、し、の印刷合紙に刻り、不  
林清也、支之江と委員合し、とて、物  
二の物、入、復物、本二記本を、  
森、堀、合、跡、身、事、物、の、出、版、印、事、  
代、理、部、用、紙、と、お、南、と、願、客、あ、り、  
こ、と、見、え、近、高、店、娘、紙、に、記、え、苦、情、を  
申、出、す、旨、出、版、印、り、と、報、告、し、報、知  
せ、し、風、雪、國、令、一、等、を、贈、り、来、り、こ、え  
と、大、隈、家、物、の、表、紙、を、同、を、コ、ロ、タ



フと附し一巻とてさすものも実る余の授  
印社の傍に居し選いたるものも一冊の授  
ハッ島の附しあるもの余に云河撫輝に  
しての改次也京都石本晴海に郵志を  
あらし其の新紙を評す。新紙を草下ん  
夕陽と到又。

四の

雨寒冷甚し朝来龍眼を草す九時  
文の協定を了す不刊り文の出版のま季  
決り亦印中見他を決す午時橋本に刊

リを改次ると今合す云流本の改次  
る五十四日録あり三時出版部刊り代  
理新聞如新紙の多入と書術に對し  
内儀あり又刻又日本復元部：堀内早  
速品田金子海を地増田と合す校  
規このま内儀あり、徳吉副総長の件に  
付物にて強論あり、校の由あり又  
氣も七認めらん、第一田沼に進行せ  
ざる時を紀念する業其を呈奉集に  
障り先と集つる書あり、皆に内心悲  
観す、深更田書



町場子をとり、身切技藝を協議す、井土佐  
重幸幼許後の材料をもとめて、文の場へは海  
濱集に揚ぐんき余の海濱集を板出す、去  
る所行、直つ時未之人のあつて十日に約  
手の刻引を以て、余のまゝとあつて、期  
限三日のち也、午後散乗神田の毛紙を展  
示し、荒干の圖をを懸せ、之を、夜二時  
地震あり

町山田海濱集、旋海をせり、又文  
の場子海濱集の余り、淡流の箱を授  
け、午後印刷会社の委員会規則ヲ  
立案し、略々成る、早稲田大書園を設け、  
此刊洋書目録日先次七在書志のものを  
贈り、まゝし、加更る、本の特別名本を贈る、  
夜来雨あり

雨段上、所花事、市列刺殺防流を、家族一  
同に施す、石塚より出京、物を贈る、日比谷



小室松尾 晴彦より厚の招状を致し来る  
井上正重、吉道の法流と草子録を印刷  
賜物りの合し件より其頃十一時少し印刷  
名紙の重役等と伝ひ、午後重役と此  
二坊各部を巡視す。此日大雨降り、三  
時帰宅。日課抄録畢、今月八、九、十、十一  
日、多岐道宿宿雨風集

八日 日曜

雨風、五日甚吹中母の訃報、葬儀す。午後坊  
子集り、余り徳去公選論、終る言を表す

この日、此の都り来、蒲河の一助より日課抄録の  
寸珍二冊成り、畧しと酒肴茶後報と云、寸本架  
中、置り、畑守まのり、此のく、徳と、おま、  
分旅費補助し件より由後あり、浮村めると  
いふもの大徳友の巻と、そのものをおま、徳宅  
と七とあり、其のの代筆、午後大徳邸に到  
り一時止ると夫の場合より、茶流合とひら  
く、その出資あり、世子大徳の井上秀子、田中  
徳積、此、洋行中、のうと、流う、内、徳宅  
より、電報来り、お状を以つて、答ふ、



晴晴、以井堯氏中田御孫清和義雅之  
訪古池集三又出書と云うし来る、文内場合  
らし近刊社名主義批判、此代英心社名主義  
史二冊既本、新書を弄す、光田は外出旅  
田の志店と訪い山本、二十由拂、新書に彼  
し金春の級に映書しと見初り入り、昨生  
坂田原倉に酒屋ありと云ふ

十日

晴風、朝日暮暮、抄録に時と初まり、此一

ちと昔西田是考を定むる、午後淡子  
本館有別院、此古き室田を古次郎未  
二人の弄弄偏に臨む、帰路神田の志店を  
訪りて二三の志を嬉めしむる、外出守高  
田博士其訪、飯塚朝次郎とて、<sup>四年のこ</sup>  
く餅と云り来る、余を弄す、十月十日  
大隈志侯遺難紀念の、四谷三河を早  
稲田三関合を閉く古の志、除利、其時  
未二人とも、<sup>おの</sup>昔と結ぶ、在る清の  
和良文三とも、<sup>光</sup>出利、其年三三月  
迄在甚重と要する、<sup>重</sup>極病を弄す



きり紙す

十一日

晴、晴内道通、身訪、岩根、可敷、と関し内議  
し、七去る、同じ、件、序、高、の、し、し、電、流、来、る、  
高、子、保、花、森、脇、美、附、来、訪、致、塚、朝、  
次、中、に、自、女、若、大、隈、及、一、言、一、行、を、去、る、  
中、仰、飲、流、ら、し、祖、母、温、お、流、二、七、回、忌、法、  
要、(十一日)集、内、状、来、る、午、夜、閑、を、得、し、施、  
録、を、草、す、内、子、元、を、推、く、て、新、中、府、へ、行、く、  
三、時、迄、已、し、福、田、に、敷、兼、回、考、を、施、す、風、

月をに飾して入る。

十二日

晴、古、地、素、三、束、る、青、香、代、の、内、く、義、本、地、代、全、  
二、十、内、)老、者、朝、お、ら、後、昆、田、を、坊、へ、致、親、問、  
出、を、由、派、し、一、二、福、田、の、乙、名、と、坊、へ、し、く、る、  
和、お、文、三、廣、井、一、致、塚、朝、治、印、し、出、状、を、  
書、す、午、後、身、の、際、士、身、訪、中、の、坊、へ、こ、こ、多、  
岩、根、の、可、敷、を、内、議、し、去、る、又、利、又、水、樂、波、  
の、果、不、と、坂、本、の、坊、早、速、と、合、身、一、岩、根、問、  
出、を、議、す、副、徳、長、を、田、中、(植、植、)と、し、く、る、集、











神田、教来村に去るに四五の虫を殺すと猪  
如

十一日

曇り、午後三時、電報あり、直に行くと、  
先づ、午、高向、山根、共、一、睡と得たり、  
田中、記、を、種々の、談あり、去つて、  
其、本、三、中、を、訪、つ、て、田中、あり、を、  
激し、坂、本、午後、田中、の、間、と、決し、十二、時、  
宅、前、島、男、長、女、の、死、を、香、奠、を、  
古田、春、子、の、亡、見、教、一、の、記、念、と、  
略、り

来り、午後、三、時、を、訪、つ、て、坂、本、を、  
田中、第、一、の、間、を、訪、つ、て、  
三、時、良、花、來、訪、

十七日

晴、早起、の、朝、の、お、お、お、お、  
十、時、前、の、男、も、の、告、め、式、に、  
来、潮、波、の、お、お、お、  
尾、復、お、お、お、  
三、馬、山、湯、の、病、を、  
と、訪、つ、て、二、の、法、帖、を、  
神、田、の、虫、を、  
略、り



而早起日課の抄録する。昆田村の地誌を  
本三ノ中事あり。田中秘積とある文々記念し  
類末を報す。或人と脈を絶ちたることき親  
友も尚ほ一縷の印を収す。余らして一葉  
を提出し、高田の取山形好むと述べて  
侍ら之んを行んとし、今七口留る先が古坂  
本より一時よしの談論を續けて列の森  
脇美術村の地誌午後西風益々甚し四時こ  
四谷三河原に到り未合者五十餘名余ら  
一場の挨拶をちし、此今と隈門合と稱

すしと提議して一回の心算を得次面  
より故先の印に開く事と決し、其酒外  
四名の幹事を指し八時より。

雨ぬ今朝高田山行好むと述べて、往時  
昆田村と協談せし田中河野新井協談  
の由り昆田本と加ら永樂寺住持都  
合しし事を述べて、高田の増子ま  
一ノノ事あり。既後和志を河魚を贈る日  
課の抄録す。午後供み先と伴て神田







未又半金三廿枚めを以り其をさし内  
輪の者の又矢く多しはる。京都能谷橋石  
堂を松茸とて民と給ふ。難波中町  
身取坊。

二十一日

晴、早起日課の抄録し、又新録を著す。七  
段のりり来山、津山出見らる。あつあつ今津  
並街の也、利ふ。廣井一並木見たり。中田後  
をりも功十時、あつあつ利り。浮田松  
山寺と事と、愛する。左の坂、五十年前  
しと病状を、川か、京都の、此、不、能、未、試、也

をり、あつあつ、今、付、ハ、一、日、功、四、時、神、田  
出、房、を、以、り、て、回、出、と、進、み、五、時、早、大、校、友、大、會  
に、抗、え、上、仰、精、養、軒、に、利、ふ。未、公、三、百、數、十  
名、食、後、高、山、の、田、増、因、と、別、家、に、今、り、由  
中、洲、を、内、減、す、須、具、彦、松、の、計、利、る

二十二日 日曜

晴、神田の山居を以り、例のこころ、回、出、を  
以、り、荒、平、を、得、て、こ、ろ、今、付、ハ、一、日、功、を  
あ、つ、あ、つ、今、日、の、印、刷、會、社、の、腹、負、鴨、沼、を、  
是、と、さ、す、余、り、を、以、り、て、行、う、未、以、後、中、空



欽此と申す。祖母法事の草子供物を賜り来  
る。昂居を乞ふ。御湯くしを乞ふ。現多田の  
海しを乞ふ。大工元こり。そり。そり。そり。そり。そり。  
略し成る。

二十三

時、早起多き。乾杯を乞ふ。湯浅止。月  
来。法。以上。山。花。事。あり。總。活。注。射。を。施。す。  
去。り。多。新。り。八。を。老。し。手。形。切。路。八。且。つ  
五。る。因。十。二。月。中。旬。五。色。湯。の。約。を。借。入。出。版  
部。の。ち。山。幸。友。身。あり。南。田。を。并。し。と。書。る。

須具彦。松。元。云。こ。は。中。秋。香。典。を。乞。ふ。也。  
大隈。後。室。より。真。綿。七。を。乞。切。手。十。内。贈。り  
る。三。取。新。を。賜。務。務。身。祝。物。を。乞。し。乞。ふ  
返。珍。也。塩。原。身。夫。吹。者。三。の。方。別。刊。六。午  
後。信。也。乞。乞。乞。を。付。心。散。集。神。田。の。出。地。を  
功。心。村。口。の。店。に。五。十。山。山。本。乞。乞。乞。十。五。山  
拂。一。着。千。の。田。山。を。贈。り。報。望。に。物。を。海  
心。四。谷。二。田。下。り。三。河。原。乞。乞。乞。乞。乞。乞。乞。乞。  
吹。乞。乞。物。を。贈。乞。乞。

二十四







ニ傳くず、故真治に城の文福を元出し、慈心  
理の時を費す、山本印刷に附さんとす也、平  
後神田、利山本を店とし、既元の瀛舟某  
談を購うとす、故上巻を、松葉半と贈  
り来す、三浦山老死云、竹梅状とす、又、藤  
浮松士(利善をり)とす、亦、出、京都、因丸、復  
一、先、大、迂の七週、忘、落、す、と、云、む、十、月  
三日、京、邦、美、術、ウ、ラ、ガ、ニ、リ、お、あ、め、お、列、の

二十七。

頃、毒、物、又、治、り、牙、治、法、去、勢、録、出、版、の

件、存、云、の、依、託、と、云、す、古、池、素、三、協、代  
三十日、ぬ、二、五、物、二十、廿、田、お、治、り、音、山、好  
の、杉、浦、平、一、の、為、め、小、賤、三、押、高、之、為、り  
送、京、都、終、局、と、す、松、葉、半、と、贈、す、牝、内  
漢、二、ら、し、亦、亦、大、叔、亦、漢、と、申、す、松、葉、半  
と、贈、す、午後、秋、晴、に、乘、り、出、遊、水、田、の  
出、産、を、幼、を、二、三、の、云、と、得、光、の、以、え、と、物、を  
贈、ん、光、と、併、を、目、里、に、持、り、宿、原、寺、不  
動、を、裏、し、ゆ、路、四、及、三、河、尾、と、致、す、  
円、山、漢、一、と、見、人、に、此、念、印、創、物、を、贈  
り、来、る、本、箱、二、個、を、持、り、















公園にあり大隈牧首銅像のあるあたり  
らと山に登り平尾忠家の碑の背後  
の路を下り、此を初めて出づる変え  
屋木の間に、松谷あり、龍橋の橋を  
築し、野々風筑あり、丹室の神社、  
林守、中川、井屋守の境見するよ  
ち徳川氏の家廟也、此を流石に、焦  
りお七うげをあら、丘枝に四五古墳の  
遺蹟を標する石を置き、六丁橋の  
此境の趣を深し、うらもる者あり、終  
一池に流れて行けば、井天初時に出づ  
三河を、酒造りて、うら

三日

八七井天初と印をもとる、其の昔  
後の本宮に入ら、今も今、初時入り  
深く、興致を感し、うら、四谷に、  
三河を、酒造りて、うら

昨日印の左宮と海を掘出し、建、築費人  
トタンを掘か、うら、大工、手間、おし、る、  
田、仕、拂、り、真、の、時、未、  
五、十、日、本、宮、の、跡、  
を、築、す、  
坂、上、に、  
射、を、  
施、し、  
考、



大石田三治良義等身酒経九日留堀田  
海毛坂本寺坊田中徳積念等手紙と  
云ふ二付向後のころつぎ凝滞十二時皆  
去る午後教果村に出入り五十田拂  
新島島其治平三郎と申す也夜二入り  
和良三妻子供玉と申す也

四〇

時、田村寺より文的と院の手をもとめてある三  
治良義高須梅江寺坊井上経重と申す  
未志十時と申す印別今死に判り妻も人分

：此の、今此修業しし人物記事と申す  
其の年を要ししと内瀬し三時散念、  
海毛國次等其海毛出船印に於て  
出船等りたる喜いと申す酒を貯り未の  
出船印も近刊工ピリテのトス道邊  
の家庭用況重割と配本し未の、真  
治行概は福出船より今迄と見積  
むと徴し且つ元本組を徴す、市山の  
小舟降しし木炭五十俵引連、教果下  
谷本寺所の又行書、圓書と婚の



五日

晴、新米を煮て食す。夜更に夢る。今海に二三日  
有る。御高垣、大波は砂川の二に到る。四日  
の日本に病を帯びて、午後佳む。出遊  
神保町、名に四日を婚をこころ難波記  
二節とて耳去。深夜夢醒め、新購の玉  
と耽讀

六日

晴、加津隆一、出物とて食す。大石理田を扱  
き、蘇村遺稿の句讀、校正をたす。五峯本流

午後印刷分社に到り、子を要す。大隈侯を  
訪ひ、又後宅を訪ふ。其新居を見、夕飯  
日比谷内、亭に内朝の星や錫を也  
、旁中、道の重役、合あり。信康あり、鹿  
兒島、茂久、吹有、三の端に到る

七日

晴、久江、舟一、大石理田に同九、舟用を  
兼す。古池、素三、中川、柳お、押さ、免の三帖  
を、高し、来り、示す。公持、新き、柳お、と、詩  
あり。寸路、采舟、のよ、あ、と、す。新米、死、互、法



近程の地、森跡を掘き、その土を、  
和名、平の土、又、海陸、  
後走と掘き、土、  
帝、  
二、  
秋、  
結と結ふ。

八〇

雨、  
石、  
す、  
一、

年、  
雄、  
室、  
今、  
を、  
一、  
米、  
度、

九〇

時、



又身に集居のあまの状が夫しう、板に五峰  
来流、沖繩行船寸もいへぬ者三の郵出列る、  
午後散策出坊を記して国志を贈りて  
物へ了、日暮もいへぬのふ念と知り来る、  
島海石海らうと十年出物斗両ちう、五  
峯路お行致文代作を托す

十日

雨、大石理の路村お枝心の件存程を  
揃儀しとさう、施録を寄し時を移す、午後  
藤井忠太お来訪、法帖を出して日誌、夕  
刻去る、度儀ら舟双楫を郵寄す、此のよ  
り大工を備へて昂の掛せし、二宮弟二欄を  
造る、奈良良が今宵は二二色の格をいさ  
り、南葵来庫もいへぬ本春行紙一冊寄  
贈をさく

十一日

雨、高須物漢もいへぬ、板に五峰其  
初代他を托し、路村お枝心初行成り  
示さる、山林深しとさう、木村某のため  
今より押さるもとせし、来賜月流、三時良  
花自家の問題、路村お枝心の件



二竹直の典二に云然とあるなり、午後散  
乗初四を以て浅き三列り浅く危し随文散  
と稱せしむる、沖繩若夫吹者三の終えり  
き列り、京都山山懐一こもす也

十二日 日

時橋井清五郎に云就とあるなり、何れも  
五月閏五と記し九州旅行終り物束  
有りも物、不支守、校親訓題の推初  
と報し旅中こころを聴き去つて初  
の考特七流心凡月書に飯しとこる。

直治典三竟去元次やふり降一を  
去奥四雲を冠と物と記し、田中又二  
即耳初校親訓題珠に大隈初徳去初  
續者こむす、糸糸、并古時河内流  
と考す。

十三日

時坂上初花馬り例の注射を施す、大石理山  
茲村小橋板心の件、百馬初、日南生、金保  
陰を以て報初の件、百馬也、重攻者  
今月この云就、物束の考す、大攻



のダンテ研究家大賀壽吉より、本年ダンテ  
を贈る、午後伴も光を以て散策神田  
より、延所と経て四谷三河倉に飯を食ふ  
出版部より、工業書一冊配本

十四日

所、高橋義彦の自伝を以て、出版部より、九  
時大隈邸に到り、文部協会の件を話し合ふと場  
所し終つて出版部橋上と大隈が依り、橋  
上より、廿中夜お馬高次郎と協談す、一  
時政に五十年と云、坂家初功と功、藤村の  
形の改訂を托し、高橋の成る、今日の大隈邸

に於て書齋を設け、置る、高橋の書齋と云ふ  
区分す、侯爵より、古佛像一尊、仲淹墨  
帖一巻を以てする、三浦史記の妹より、  
出、五時の法生会、保良会、此の創立記念  
に招き、東京会館に到り、会の後、帝制  
を觀る、木内喜八、依、木内喜八、依、  
族より、高橋の所得、税死、税死、二期  
徴書列る

十五日

所、高橋義彦の自伝を以て、出版部より、九  
時大隈邸に到り、文部協会の件を話し合ふと場  
所し終つて出版部橋上と大隈が依り、橋  
上より、廿中夜お馬高次郎と協談す、一  
時政に五十年と云、坂家初功と功、藤村の  
形の改訂を托し、高橋の成る、今日の大隈邸



奈らるる高橋義彦の毛刺る、高橋義彦を  
印しとす。大石理内、二箇す、今津八一よ  
り使を以つて石佛杭本二枚、徳島等  
を贈る、校及中山段、安藤正輝、其訪  
大石天下茶屋、大賀壽友、トクニ、集  
を贈る、謝書と書あり、不久江津一並  
木元年、今津八一、と書あり、  
午後内、高橋義彦と曰、高橋、功、  
未あり

十二日

雨、和田萬吉とす、其書、解書、泡一冊、郵便  
に、贈る、十時印刷社、名、高橋持三の葬儀  
に、臨む、(石川宗慶寺) 香典をせし、弔文  
を讀む、其、高橋村の、仲友、又の、高橋を  
五、高橋、郵送、加、高橋、午後四時  
印刷社、利、高橋、大石、侯、今、此、印  
ひ、二、高橋の一、説、を、と、め、職、高、を、今、  
余、高橋、侯、を、贈、高橋、高橋、高橋、  
一、高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、  
侯、高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、  
高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、高橋、



日比谷内と身二十一日同窓会をある件  
二竹出紙をある、七日迄桂多く貸付の江  
西政印影二冊返本

十七日

雨収大隈友と、拜山墨板一幅白鷹  
二大瓶千巻一紙贈多、五生年身訪誌  
村小箱友文化心成、今身八二身訪  
午においとありとある、一時出版部  
より本年身訪誌法を評決す終  
つて四中唯下り記念紙に余りの追懐

談と訪入、一時間、こころ、談話を  
筆録日あり、**團本**某某刊分の大村文  
夫未訪、又中田詢吾大隈侯伝記材料  
を携く来りあり、井上辰九中、出紙と  
す、十八日陶器身、桂けり同窓会の出席  
者十四名也、初日入り又雨

十八日

雨、和田若吉と、七若江戸代吳旅道を  
焼く来り、直つ路中大中、初子出書と、日  
祝と、七編編を送る、大架壽吉と、身出  
北紙の精礼の関古中、系系訪派員高橋友



洗郎と付あを来訪、以年強しつぎ種に花を  
と受く、森脇昭ののんきつぎに後、午後  
出遊二三の古店を訪ふ、五時より日比谷陶  
器館にて一、橋本氏の同窓会を以て  
未会人名左の如し、余控よりして萬錦軒  
旋す。

新井利花たち、砂川所長、馬田早苗  
岡直三彦、田中正平、方尾権平  
堀達、根岸錦次、少野徳太郎  
土方宮子、若尾川義太郎、石塚敏一  
洋子(春六) 余 十四日

午後五時在来中のほろこを流し十時散  
心、八太徳三より来る、和田若吉とて其也。

十九日

明、金澤へ一、し事出、朝身龍谷を歩  
す、校視問題、行政本三印らと電報、  
八太徳三、来訪より控して去る、田中正  
平、出校を及ぶ、午後大隈邸に到る  
二時より文の場合の茶話会を以て、  
其會八九十名、堀柳政太郎、吹米教育  
上の状況を二時より針講談の後、席を合



巻、移し、幻帳を返用して、模者恒、  
ル、カス山中、前人未比、登攀し得、  
峰の登攀を果し、経を約一時  
間、説の合家、歎の感動、  
と、閉ち、中央、  
と、名、予を興、  
し、と、う、  
小、  
し、  
高、

二十〇

明、  
者、  
は、  
を、  
法、  
を、  
大、

二十〇



時朝廷迄に出づ。後集満地。十時出版。印  
：至り大隈友修氏編纂。今迄。心人。余。是  
編輯。負。為人。：来。年。一。月。迄。進。行。の。程。を。并。  
文。事。上。の。件。を。二。三。の。注。を。と。洗。示。し。各。友  
材。料。は。行。々。の。折。合。を。為。す。と。存。井。忠。を。印。  
ら。し。と。す。也。

二十一日

時、種村宗八橋本文吉（其業日本記）より  
大隈侯遺著若東西文の河川を以て上梓に  
は花取の予を御説す、其時中たらし

謝書。別。々。京。都。谷。村。一。大。印。し。う。事。出。且。の。亦  
八。回。大。花。合。度。説。目。録。と。記。し。来。る。村。山。島  
一。印。を。し。近。著。「京。都」を。記。し。来。る。阪。の。五。峯  
来。物。同。伴。神。田。の。也。村。を。幼。少。共。に。雜。書。を  
購。ひ。風。月。を。記。し。て。之。を。山。田。秋。衛。氏  
来。出。且。の。其。著。画。紙。を。寄。せ。来。る。時。亦  
菊。の。古。也。う。菊。の。年。中。行。事。と。騰。寄。し  
本。の。寄。り。関。方。も。し。亦。也。大。吹。省。三。沖  
縄。と。物。年。友。物。を。贈。り。今。月。ハ。一。と  
今。良。石。仲。振。本。一。枚。贈。り。来。る。











開き午後二時に、才二納納税三万二千九  
十錢納付、五時より内務大臣の招へて  
洋場士と共に露業任出部、晩迄の懇  
話を終る後、任海談を戦ひす、响路神  
の玉俵二圓とを贈り、和島文三も甚き  
出の及後、その方を報せ、未月廿四日  
印材、主使等の通達あり。

二十八日

時、庚井一二出状を呈す、文三庵着を報  
す、関大ら一々夕悔玉二付別を告ぎ、出殿印

員并二印創合記の本旨を根き、大隈侯遣  
若装釘し、意匠と協議す、十一時出殿  
印に到り、大隈侯傳に編纂命令に臨む、  
午後三時、高須梅屋田付下谷練傳  
所、壽喜と伝ふ、河内山宗全の遺址と  
云ふ、夜に入り、更々他事あり、飯九深更  
ゆつ、坂の五番亭らに、其出、不在中、  
真宿平三、中、其出、朝解、出、其  
別を告ぐ。

二十九日



明、今、自、二、南、義、二、部、と、奉、出、森、村、小、行、に  
関、し、大、石、北、田、の、出、物、と、名、あり、難、波、理、一、の、  
才、求、治、中、山、麻、雄、南、湖、書、三、冊、持、卷、購、  
入、七、日、交、付、難、波、理、と、名、し、時、を、移、す、平、  
後、世、故、り、折、り、記、ある、高、橋、友、治、の、才、求、治、三、  
時、と、外、去、淡、公、を、名、の、を、回、出、を、贈、ひ、  
三十、日、拂、神、田、の、廻、り、三、の、色、衣、を、功、以、風、  
月、を、銀、一、七、之、の、由、田、川、政、文、と、名、す、  
余、の、考、案、を、印刷、中、の、早、大、謝、案、成、了、

三十

明、西、子、大、石、松、山、專、大、印、の、後、を、う、き、到、る、難、波、

を、兼、し、時、を、移、す、故、に、五、日、奉、出、物、と、名、す、  
亦、須、梅、澤、と、し、物、を、贈、り、未、る、舞、船、合、社、記、  
而、を、割、五、分、銀、取、十一、時、に、見、を、付、め、  
出、物、淡、公、を、名、の、銀、一、七、奉、出、物、の、映、畫、  
を、見、物、と、し、物、を、出、版、印、と、し、五、日、奉、出、物、  
刊、配、本、寢、後、杉、田、言、的、の、形、影、夜、花、を、  
讀、し、畢、一、日、治、十、部、北、代、價、三、十、七、  
日、也、古、池、幅、代、の、内、へ、送、す、



〇十二月

一日

吹風山田所心前月の様巻二冊お春  
素物舎筋牙本坊高橋義彦より  
来出高須掛河之出物と見分す此兵出  
を後正、又雜紙を寄す、北西の抱心  
う海魚と形々、早稲田温文公十四  
年紀念として襟飾ピンと寄る来る、  
出版部より國民の日本史(大和時代)紙本を  
受く、

二〇

時、内田魯庵より近著「バツダン」と寄る  
来る、高橋義彦より和名正一翁の遺冊  
の内三冊度り来る、主婦と友記名杉江重  
夾より坪中銀介より、龍紙を寄す、七  
池素三より、塩沼俊士より大隈純子夫人  
の疾を内報あり午後兄島山、内田魯  
庵、蟹し記を贈る、余の著述三行出版  
部賣上印税二万七千二月九十八日物  
下泥淑郎病勢漸く輕快、田相良  
宅、物轉と寄る、河内守、心余、山物  
箱を贈る、五時より如丸波、到り、



江戸の後の代目家屋の伝記、坂七史等  
とて出来出、と秋田家屋出房者

近原金彌 中川海舟 大井貫一 森田景

真崎典喜 新田英彦 長尾半平 田下文治

栗林佐朔 青木直流 壽十田各

懐旧談話き時の福王親系、梅津和軒

与来出、細川出店とて園出とて藤代全

二十七の五十八掛馬、高徳、酒と下物を贈

二日

吹と新と植木志庭村の午入、来、九時

大隈新侯とち山南川六日(五十五)の邸

外、谷家巡見、拵道とて庭園七層し、奴

住、在也十一時辭し去り、九時下、出、村に

出、房、三、三、寄、古、物、代、の、全、る、の、掛、又

松、雪、也、三、寄、二十、掛、風、月、也、飯、

又、多、本、御、通、り、珠、環、を、功、の、也、

出、物、也、し、の、四、十、日、掛、入、高、須、掛、

与、し、来、出、高、橋、義、彦、也、自、一、尺、出、

卷、を、五、送、し、来、了、其、為、平、三、也、

山、着、七、朝、し、来、了、

三日



頃、板本を二八引つゝき来る。改上七行  
才より別の様活字射を考へ、行打毒陽  
来流、用に乗し七旋返を考へす。松井正  
夫は右の四行を其才上六聯隊才一中隊、入  
巻を報じ来る。午後十時、望三を祝き紙  
休令し、書を抄す。山の清心寺、和久直  
平、妻を子と換く。北海を引揚出る。其才の  
實業本此の橋本才、大隈達、若出版  
子協議す。五時、飯田河岸、中野元  
梅と紙作、合さる。余、船上、合し、沈筆  
を、流況す。其合、高四十名、夜来、雨あり

五。

雨、收植本、来る。松文、本、十、ある。不用也  
文、付、此、價、の、用、也。十一時、大隈、後、傳、記、編  
纂、あり、務、あり、別、り、編輯、者、紙、を、つ、ま、き  
お、馬、執、事、の、始、り、余、の、言、を、見、を、陳、ぶ  
午後二時、去つて、神田の一二、乙、店、を、訪、ふ  
て、う、り、了。稅、務、所、の、代、人、を、考、へ、瓦、俵、を、舟、  
代、理、也。倉、倉、別、在、植、本、倉、午、入、午、尚、復、  
二十、日、拂、込

二。



晴、夙、田下文法より来る。且、新島が心の元  
を贈り来る。田村を品代に託し、再び税  
務署へ来る。植木屋三人引つゝ来る。浅  
草、浅草公舎に到り、旋を贈る。前助定を  
の内十六日、五十製拂ふ。大坂朝の報、社  
より、山松二方、年記念、辰、費目六三、部、送  
り来る。文部省より、全国団の報、国する。油、査  
一冊を贈り来る。

七日

晴、旋を贈り来る。且、新島が心の元  
を贈り来る。田村を品代に託し、再び税  
務署へ来る。植木屋三人引つゝ来る。浅  
草、浅草公舎に到り、旋を贈る。前助定を  
の内十六日、五十製拂ふ。大坂朝の報、社  
より、山松二方、年記念、辰、費目六三、部、送  
り来る。文部省より、全国団の報、国する。油、査  
一冊を贈り来る。

大の雅書あり。之に、法、あ、こ、り、の、高、由、と、塩、次、海  
と、中、新、新、舞、集、り、他、の、子、を、協、働、し、亦  
校、親、不、登、し、し、り、及、お、終、こ、高、由、と、共、こ、永  
生、理、生、部、刊、の、は、以、由、故、本、と、今、こ、し、教、育  
可、校、親、不、登、を、協、働、し、高、由、の、旨、を、去、る、及  
及、本、と、協、働、を、進、つ、り、高、由、の、旨、を、大、隈、家  
の、高、由、の、旨、を、如、生、の、件、を、治、す、菊、池  
の、旨、を、進、つ、り、高、由、の、旨、を、協、働、し、亦  
植、木、屋、三、人、引、つ、り、高、由、の、旨、を、協、働、し、亦  
界、設、定、の、件、を、山、田、重、一、と、高、由、の、旨、を、協、働、し、亦

八日







の進奉(名)の御席す。席上所感を漢  
ふ深夜の如文三とと六の信濃丸に乗船  
帰國の電報列る

十。

所、西川改文とて冠信書印活還本、又江  
成三箇とて甲唯一印紀念稿、つぎ云々あり、能  
録を著す、午後とて大隈印とて松文の城  
台の巻帳名とあり、また九寸和名活字  
右高山堂の活字(主科監)オウコウ活  
況岸并奥地撰換法(山公克とて)一回

教(奉)在(五)撰換法(日)四(日)の後(閉)合  
横山(の)業(と)し(来)之、八(年)勤(勞)の(功)を  
牌(と)し(て)復(を)せ(り)四(つ)と(す)、村(に)云(ふ)と  
六月(廿)四(日)ら(し)し(四)と(す)又(功)を(公)刊(せ)し  
総(計)六(百)七(十)二(回)の(十)九(入)内(外)各(百)一  
回(也)排(換)古(地)と(し)本(方)製(造)機(一)種  
小(價)十(八)也

十一日

吹(風)素(晴)江(川)今(始)有(り)山(田)正(平)年  
リ(鑄)印(余)の(和)印(二)款(と)贈(り)村(に)云(ふ)  
七(分)の(幼)字(殘)を(の)め(り)五(十)兩(拂)入(松)文



中書尾、十月拂終、湖村、四、河、海、金、四、  
局、四五の終、玉を、終、之、二十、日、拂、金、四、  
終、之、九、う、く、ふ、今、年、の、一、部、を、と、り、ま、す、  
植木屋、今、年、も、の、り、又、  
早、下、淺、谷、屋、へ、菊、池、  
容、石、子、子、本、に、家、次、才、地、主、三、十、四、也、拂、  
油、紙、の、書、お、馬、由、也、と、り、ま、電、



十二の

中、由、河、吾、書、須、梅、河、山、下、奉、衣、三、海、良、  
花、卷、菱、沙、文、と、事、の、印、刷、今、年、の、本、百、七、又、  
事、の、大、隈、侯、葬、儀、の、書、類、整、理、編、成、を

候、傳、紀、編、纂、所、に、於、て、擔、任、す、ま、り、と、り、ま、す、  
二、才、其、の、整、理、編、成、順、序、の、案、を、と、り、ま、す、又、  
文、の、編、成、と、し、出、版、す、ま、り、大、隈、侯、貴、著、本、  
西、文、の、神、祇、の、序、言、を、校、す、本、の、大、隈、御、後、  
室、の、名、に、千、兩、油、を、為、す、完、し、ま、り、お、あ、り、  
行、う、す、早、春、の、迄、ハ、お、す、と、り、ま、す、新、侯、葬、  
先、角、善、の、お、す、と、り、而、倒、り、ま、り、の、為、也、先、を、付、完、  
神、田、御、府、の、物、を、贈、心、に、松、喜、に、終、し、ま、り、  
十三の  
時、獨、を、お、り、堤、秀、夫、の、海、島、利、の、真、時、  
柱、次、の、お、り、堤、利、の、早、春、の、お、り、と、り、ま、す、



獨り中村(通)午(通)終(通)と(通)り(通)る(通)山田(通)平(通)  
長(通)子(通)ら(通)り(通)お(通)し(通)出(通)杖(通)と(通)り(通)る(通)協(通)會(通)し(通)以(通)  
川(通)來(通)る(通)大(通)隈(通)侯(通)遺(通)書(通)廿(通)余(通)の(通)法(通)説(通)を(通)  
節(通)録(通)せ(通)し(通)し(通)和(通)の(通)自(通)平(通)一(通)七(通)光(通)を(通)使(通)し(通)  
て(通)來(通)訪(通)ぬ(通)回(通)川(通)政(通)文(通)春(通)陽(通)身(通)説(通)久(通)須(通)美(通)  
東(通)馬(通)一(通)早(通)大(通)の(通)じ(通)ム(通)十(通)シ(通)ヤ(通)ム(通)設(通)計(通)圖(通)案(通)  
を(通)指(通)せ(通)せ(通)る(通)安(通)田(通)家(通)一(通)寄(通)附(通)之(通)に(通)對(通)して(通)  
材(通)料(通)也(通)却(通)に(通)百(通)田(通)者(通)す(通)干(通)後(通)旋(通)報(通)を(通)寄(通)  
す(通)山(通)本(通)之(通)店(通)勘(通)定(通)の(通)内(通)三(通)十(通)四(通)入(通)建(通)所(通)三(通)  
番(通)所(通)木(通)浮(通)舟(通)説(通)入(通)院(通)中(通)の(通)合(通)津(通)屋(通)と(通)病(通)  
狀(通)を(通)報(通)し(通)來(通)る(通)夜(通)二(通)入(通)今(通)攝(通)政(通)喜(通)御(通)重(通)休(通)の(通)号(通)

外出づ、外四(通)し(通)又(通)二(通)通(通)の(通)終(通)る(通)を(通)判(通)達(通)

十(通)書(通)

時(通)、新(通)報(通)を(通)事(通)し(通)時(通)と(通)揚(通)す(通)書(通)物(通)を(通)加(通)入(通)  
圖(通)と(通)對(通)し(通)來(通)る(通)三(通)四(通)行(通)辨(通)合(通)和(通)の(通)文(通)三(通)  
來(通)着(通)十(通)四(通)年(通)分(通)其(通)の(通)法(通)三(通)在(通)り(通)て(通)初(通)め(通)の(通)  
由(通)來(通)也(通)元(通)女(通)く(通)ず(通)婿(通)玉(通)妻(通)の(通)子(通)の(通)あ(通)る(通)方(通)  
へ(通)む(通)く(通)歲(通)暮(通)家(通)用(通)と(通)して(通)二(通)る(通)田(通)由(通)子(通)に(通)返(通)  
夫(通)大(通)以(通)和(通)長(通)中(通)の(通)物(通)を(通)贈(通)る(通)出(通)取(通)印(通)の(通)取(通)  
大(通)隈(通)侯(通)遺(通)書(通)出(通)取(通)に(通)關(通)し(通)年(通)法(通)を(通)得(通)ぬ(通)し(通)  
神(通)田(通)と(通)し(通)淺(通)者(通)二(通)通(通)る(通)物(通)と(通)贈(通)る(通)に(通)て(通)以(通)  
印(通)法(通)と(通)す(通)事(通)也(通)



十号

成、高月、峰、自園の巻物、書、を贈らる。  
小川健久、身功、龍舟をせし、時を移す、印  
刷、多記の本、百、身功、大隈、友、著、の、装、釘  
を、括、押、す、寒、氣、来、淑、暢、一、天、雪、を、催、し、来  
の、入、波、中、の、合、評、二、回、を、定、め、す、作、品、更  
方、と、し、白、菜、を、贈、ら、る、午、後、一、二、回、地、震  
あり、敷、道、の、郵、と、あ、る、す、合、評、を、す、る、也、

十一号

時、南、的、但、東、部、の、回、を、委、任、す、り、到、り、荒、干  
を、得、り、外、出、中、を、お、り、海、印、刷、会、社、に、入、社  
の、校、友、木、村、母、一、身、功、木、下、俊、忠、と、も、身、功、出  
高、橋、義、彦、と、も、比、年、お、り、五、十、心、を、出、地、収、獲、の  
計、り、亦、也、と、ま、り、来、る、也、書、用、差、引、九、十、日、給  
利益、八、金、也、お、り、春、未、達、午、後、文、三、場、玉、よ  
り、来、る、領、家、相、治、中、并、出、方、室、ノ、父、の、計、に  
接、す、

十二号

時、廣、井、一、三、尚、し、文、三、の、物、着、を、報、す、  
田、代、喜、丸、お、り、上、の、お、り、八、太、徳、三、り、折、原、  
和、軒、捧、六、七、大、石、現、田、身、功、ま、り、身、功、  
應、接、に、地、敷、を、ま、り、後、合、在、の、う、け、下、回、り



隣接する京山田圃一と云ふ人の出入り  
付境界を定むる事ありし作平と多賀  
とを以て廿四の更なる再調の事也。前路通  
出物と云ふ、今(中略)退院と稱し来り  
松井正夫と云ふ事也。土方寧と云物も  
す、高橋義彦と云自(中略)志残る  
一冊度り来り、一冊を授す、田代亮外  
事也。

十六

吹植木を又事。松：信と云、種村事  
物も授す。骨董書道院依社(中略)社事

大花某来り余の脱後をもと其口を約し  
て還へす、印刷分社の木村豊一事也。入社  
して心持(中略)ことを脱後より、新内石塚  
事也。例年より餅米一俵、鞋印一函を贈り  
来り。御物を授す、高橋義彦事也。十年  
五十七の命の七也。米ぬね九十九の命、為  
利達、午後旋廻を布し、三の命、利の、俵  
もろを付ひ、社(中略)：因(中略)を贈り、銀座  
廻り、二、三の物を贈り、松(中略)：段(中略)文  
三事也。

十九



明、雑報を抄す、高橋義彦君の久兵衛  
二出社を要する、その内は久兵衛と合社  
の不在、由路村に在る所を記す、この午  
後、文三第一車の出、股部代記部の控位  
者、松本某の進退の事、合社に記す  
協談七つ、文三の之、片来合

廿の

明、廣井一を車前、十時、由路又寛を  
合社に記す、帰路、由路の村に在る、合社を  
贈り、助定ののくる用入、素、臨、来、訪、合、社  
を、協、談、す、午、後、家、名、旋、報、を、抄、す、

廿の

明、大隈侯、使、を、以、り、王、城、後、壇、外、を、控  
す、相、身、骨、董、者、函、館、依、の、記、者、  
余、の、活、判、記、兼、に、出、書、合、社、に、就、之、の、説  
話、を、抄、す、合、社、を、協、談、す、  
心、取、法、十、一、時、を、以、り、印、刷、合、社、に、到、り  
協、談、を、行、ひ、午、後、職、員、に、協、談、を  
行、ひ、三、時、内、電、市、村、某、輔、大、政、等、  
協、談、す、八、時、を、報、し、去、る、文、三、任、事、者  
の、例、年、も、道、法、某、と、其、の、冊、集、其、不  
協、談、す、内、山、者、三、江、部、活、夫、



来也

廿二

昨今朝着井一耳功文三を引合す錦芝山  
 貞上の大名起内古池水谷(玉物)を不來の  
 午後永樂印字部(口)印刷字代の本題  
 総合を(口)印中一刻(口)其他決定終  
 の(口)重級(口)を(口)余の(口)本題(口)  
 (口)金(口)先(口)の(口)十(口)五(口)圓(口)也(口)此(口)日(口)也(口)其(口)印(口)刷(口)の(口)傷(口)入  
 多(口)差(口)る(口)因(口)拂(口)る(口)村(口)の(口)出(口)布(口)の(口)圓(口)を(口)代(口)主  
 る(口)因(口)拂(口)配(口)南(口)の(口)印(口)刷(口)

廿三

丑の十六日(口)良(口)義(口)  
 分(口)の(口)四(口)十(口)日(口)七(口)十(口)日(口)

昨、湯(口)淡(口)下(口)月(口)捧(口)六(口)七(口)大(口)石(口)理(口)の(口)十(口)五(口)圓(口)内(口)山  
 者(口)三(口)石(口)油(口)時(口)報(口)余(口)の(口)味(口)味(口)活(口)と(口)力(口)也(口)即  
 ち(口)二(口)時(口)分(口)餘(口)り(口)活(口)活(口)と(口)重(口)級(口)也(口)午(口)後  
 (口)に(口)到(口)る(口)故(口)に(口)五(口)差(口)奉(口)出(口)来(口)す(口)因(口)拂(口)の(口)因(口)拂(口)は  
 あ(口)る(口)日(口)本(口)稿(口)の(口)中(口)本(口)并(口)多(口)く(口)概(口)算(口)を(口)た(口)す(口)

廿四

昨、大隈侯誕生に保祚(口)を(口)受(口)け(口)る(口)に(口)念(口)出(口)ぬ(口)物(口)を(口)考  
 へ(口)る(口)事(口)多(口)し(口)家(口)用(口)と(口)し(口)て(口)重(口)三(口)力(口)用(口)由(口)子(口)後(口)す(口)外  
 なる(口)因(口)内(口)の(口)考(口)す(口)十一(口)時(口)迄(口)を(口)待(口)つ(口)て(口)出



所中記述に物と贈り、高橋義彦、乾海草一  
函郵送、丹馬原平、和良直平より塩川を  
贈り、赤日人を召喚令、老し満地との種  
界を定む、秋田の下戸前松松より龍徳孝  
引を寄り来り、田代の日奉史(主守代)配本  
大隈侯より醗酒米二物を贈り、

廿五。

時、度井一喜より文三の身上二つを友酒と称し  
今の困難より物と寄り、森脇合致  
東流、大隈侯より物と寄り、浅田毒城より  
赤山旦つ出心の書と贈り来り、村口忠彦

と物と寄る田村入、更なる四五の回書と贈り、  
久須美秀より平物物と贈り、和良の兄  
赤輝妹四人あるに任することくさるるに  
多夕右を招き晩飯を共にす、森打小  
福印刷儀出来、園栗の親族と示す

廿六。

所、田村森脇程村より法十時、早夫、判  
り馬田塩沢中、徳松外二三と大隈神  
宮の記し細目二つと午後と判るまに協次郎  
決するもあらず、是れを大隈侯傳記編纂  
合しと伝ふ、終つるに栗田の梅目と文の



場をより午後八時を過ぎしに、  
をりあきし今うきと能取の  
谷今入るも物代三十三  
高き方乃仲代五十二日拂

林七

頃、坂口五斗年、物を贈る、  
堂山田敷、概不依、移新  
利、五、鼓打心福、授合を  
日、謝儀二十日、老、人  
く、十一時上、命、浅者  
と、辨、山、浅、合、を、出、名、即、言、七、十、二、日、拂、高

珊瑚、石、四十日、拂入、  
此、石、死、云、の、報、を、得、た、り、  
あ、り、吊、方、大、漫、侯、造、  
二十、八、日

而、廣、井、一、村、馬、由、也、  
夕、社、を、謝、金、ら、自、贈、り、  
皆、何、節、名、の、山、水、を、  
也、代、満、午、後、人、と、  
並、あ、り、一、新、贈、り、  
田、根、生、と、物、を、  
堂、に、十、日、拂、丹、美、原、平、



本田位叙遺族扶助本年分廿五日没  
元七全部没満市道とて海儀二十五日  
飲収

二十九日

昨、報知社とて廿五日而名手早大らと  
七廿五日切手山名等の撰抄として贈る  
森陽何處有るは午後初め支祥寺  
に於ける山陽の森儀と悦び、由路那  
田に廻り、松文重とゆえ三十九日拂満  
村に於て廿五日拂、あまのあしひらく預  
けある四石御河大ら廿五日、自らも聞る

未だ開くべし、到るは、さるも白止の松拂ま  
と海云

三十日

昨、朝来松林を歩す、本本及松坂上弘花  
坂の五峯寺、初、五峯を為り、午後、同、  
殊論す、和名文三、其、各所、  
贈名多し、文三、芝と、同、名、  
興、

三十一日

昨、古田春中、  
杖親、



よう年考の題名お経く、毎年口説の  
 終る一年の感慨を綴るを例とす、此の  
 比の冊子紙紙を収めたるは、毎年口説  
 の首部に数枚おきつけたる、早大とす  
 出江部海夫とす、全二巻、因由、大  
 阪、社、午後、午後、午後、午後、午後、  
 座、廻り、物を、購、入、り、中、心、を、  
 地名辞典、二巻の配本あり、四年  
 の海平波を為す、吃、食、家、禮、入、り、盛、饗、を  
 設く



